



高齢者の暮らしを 地域で支える 外出・移動支援サービス 活動事例集



岡山県備中県民局



目次

はじめに	1
I 高齢者の外出・移動支援サービス 活動事例紹介	
倉敷市	
1 乙島小学校区コミュニティ協議会・社会福祉協議会 「福祉無償運送乙島ボランティアあらんらん」	2
2 一般社団法人お互いさま・まびらボ	4
3 NPO法人ぶどうの家わたぼうし	6
4 ぶどうの家ブランチ「助け隊・ありがとう」	8
5 社会福祉法人倉敷中央天寿会	10
6 グリーンピア瀬戸内	12
7 グリーンビレッジ瀬戸内	14
8 シルバーセンター後楽	16
9 社会福祉法人松園福祉会	18
II アンケート調査結果	40
笠岡市	20
10 認定NPO法人ハーモニーネット未来	20
井原市	22
11 荏原地区まちづくり協議会	22
総社市	24
12 買援隊	24
新見市	26
13 熊野の将来を考える会	26
14 豊永地区福祉ネットワーク	28
15 新見市福祉ボランティアの会	30
浅口市	32
16 みどりヶ丘イキイキグループ	32
早島町	34
17 運転ボランティアくるりん	34
矢掛町	36
18 輝け！江良元気会	36
参考事例	
くらしサポート黒田	38
備前市吉永町笹目地区、NPO法人よしいかけはし	39

少子高齢化や過疎化が進行する中で、日常生活に必要な買い物や通院等に困っている高齢者が年々増加しています。高齢者の外出・移動手段の確保は、備中県民局管内各市町共通の課題となっており、より一層の取組が求められているところです。

高齢者の移動手段としては、バスやタクシー等の道路運送法の許可を受けた公共交通がまず考えられますが、こうした公共交通だけでは移動のニーズが必ずしも満たされない地域も多いのが実情です。

また、道路運送法の登録を受けて行う公共交通空白地有償運送や福祉有償運送などの自家用有償旅客運送がありますが、これらは対象となる地域や利用者が限定されています。

このような状況の中で、それぞれの地域において、NPO、任意団体、地縁団体、ボランティア団体、社会福祉法人などが、地域の実情に応じて、高齢者の移動の手段としてだけでなく、外出も促す活動に取り組んでいます。

これらの団体の活動の多くは、道路運送法における「許可又は登録を要しない運送」であり、地域住民が主体となった互助活動や社会福祉法人の地域貢献活動等としての取組がなされているところです。

備中県民局では、こういった取組を管内のできるだけ多くの方々に紹介すべく、活動事例集として取りまとめました。この活動事例集が、高齢者の外出・移動支援サービスに関わる方々、そしてこれから取り組もうとする方々のお役に立つことができれば幸いです。

最後に、本活動事例集の作成に、企画段階からアドバイザーとして参画いただいたNPO法人移動ネットおかやまの横山理事長をはじめ、御協力いただいた多くの方々に心から感謝申し上げます。

令和2年3月

岡山県備中県民局健康福祉部長
藤澤 正治

倉敷市 01

乙島小学校区コミュニティ協議会・社会福祉協議会

「福祉無償運送」 乙島ボランティアあらんらん



福祉有償運送団体が始めた移動支援 地縁組織が引き継ぐ

倉敷市玉島乙島小学校区。小高い山の斜面に家が建ち並び、海沿いの町です。道幅は狭く、とても入り組んでいます。

10年ほど前から、高齢者の移動支援が地区の中で課題となっていました。

平成19年3月試験的に「乙島ふれあいバス」を運行しました。34カ所ある停留所を1周すると、1時間もかかりました。利用対象となる人も自立している人が多く「地区で走らせるには、まだ時期が早い」と反対の声が上がったため、中止することとなりました。

平成26年から小地域ケア会議の中で、高齢者の移動支援について再度検討を重ねることとなりました。

平成27年8月ボランティアによる「乙島あらんらん」の運行を開始しました。その後も、「NPO法人かめかめ福祉移送」の横山氏から助言を受け、倉敷市保健福祉局や中国運輸局岡山運輸支局等と協力を重ねました。

平成29年5月乙島小学校区コミュニティ協議会の承認を受け、7月より福祉無償運送「乙島ボランティアあらんらん」の運行を開始

しました。

利用できるのは、年間登録を行っている乙島小学校区に居住する高齢者及び障がい者の方です。週2回（火・金曜日）運行し、主な送迎先は、玉島地区の15分〜20分圏域の病院やスーパー、銀行等です。利用者は運行日の前日までに、運行管理者へ連絡し、予約します。運行管理者は、前日（18時頃）に行程表を、運転者にFAXします。同じ行き先であれば、相乗りとなることもあります。利用者からは「車内でお話ができる」と大変好評です。

利用者数の1日平均は、平成29年度は、5.7人/日であったのが、平成30年度は、8.1人/日へ増加しました。利用者の増加に伴い、軽度の認知症や介助の必要な方への対応等、利用者の状態にあわせ、付添ボランティアの人1名を同乗させる取り組みも始めました。また、令和2年度からは、運行日を1日増やし、週3日にもすることも検討中です。

乙島小学校区コミュニティ協議会・社会福祉協議会が、各方面と連携し、「いつまでも安心して住み続けたいまち」を目標に掲げ、頑張っています。

●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	乙島小学校区コミュニティ協議会・社会福祉協議会
2	開始時期	H29（2017）年7月
3	利用対象者	乙島小学校区に居住し、年間登録をした高齢者及び障がい者
4	利用者数	登録者数 65 人
5	車両台数	コミュニティ協議会のリース車両 1 台
6	運転者数 / 主な運転者層	5 名 / 60 代後半～70 代前半
7	送迎に係る利用者負担	ガソリン代実費
8	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加により、支援の方法が多様化してきたこと。 ・運転ボランティアが不足していること。



支援者の渡辺 知男さん

2～3年前にグランドゴルフ仲間からの紹介により、らんらの活動に参加しています。1番のやりがいは、皆さんに喜んでもらえ、地域のお役に立てていることです。



瀧澤 厚志 事務局長

携帯電話へは、利用者からの予約電話が絶えず掛かってきます。



利用者さんの声

らんらを利用して1年ほどですが、きっかけは免許を返納したことです。免許返納し大変困っていた時に、らんらを紹介されました。らんらを利用できて、大変助かっています。



被災したまちの復興を目指して 被災者同士の支え合い

平成30年7月豪雨災害前より、倉敷市真備町内では、医療、福祉関係者が集まり「真備地区関係機関・事業所等連絡会（真備連絡会）」で地域包括ケアを見据えながら連携を図っていました。

平成30年7月7日の発災後、「真備連絡会」の有志が集まって、自分たちの事業所も被災した街の復興のために何か出来ることがあるはずと、8月25日に1回目の協議を行いました。

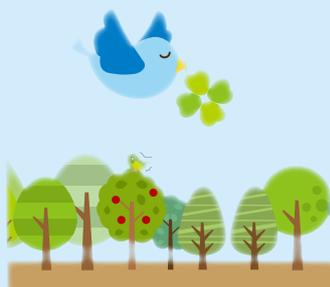
9月3日の2回目の協議の時には、「お互いさまセンター」の立ち上げを決め、「今必要なのは移動支援ではないか」と動き出し、11月1日に「お互いさまセンターまび」を開設することとなりました。

主な活動内容は、移動支援と生活支援（日常生活のお手伝い）です。利用者は、被災された65歳以上の高齢者、障がいのある人、子育てで支援が必要な人等です。

移動支援を行うドライバーは、被災された方や再建を待っている方をパートで雇用しています。

日常生活のお手伝いでは、センターの事務所と同じ建物にある精神障がい者の作業所の利用者もスタッフの一員として働いています。

令和元年5月15日より「お互いさまセンターまび」の事業を移管し、継続して街の復興を見守る「一般社団法人お互いさま・まびラボ」を設立しました。今後は、基金を創設し、真備復興のために活動している方へ再助成をできる公益社団法人化を目指しています。



お互いさまセンターまびのチラシ

●基本情報

	項 目	内 容
1	実施主体	一般社団法人 お互いさま・まびラボ
2	開始時期	H30 (2018) 11 月
3	利用対象者	利用登録を行った 65 歳以上の高齢者、障がいのある人、子育てで支援が必要な人等
4	利用者数	登録者数 170 人
5	車両台数	リース車両 3 台
6	運転者数 / 主な運転者層	5 人 / 40 代～ 60 代
7	送迎に係る利用者負担	ガソリン代実費
8	今後の課題	他の団体等と連携し、声を上げることが出来ない孤立してしまった人に寄り添える仕組みを考えること。



支援者の江木 有三さん

被災直後は、何も出来なかった分、復興のお手伝いが出来ればとの思いで始めました。真備町の復興に向けて、ふさわしい支援が出来たらと思っています。今後も丁寧な支援を心がけ、利用者のために活動を進めていきたいです。



多田 伸志 副代表理事

法人内に基金を持って、真備町復興の為に、活動している人に再助成が出来る機能を持った「真備町のまちづくり会社」として公益社団法人化を目指しています。医療・福祉分野が、声を上げて立ち上げましたが、いずれは、多様なまちの人々が参加出来る会社に育てて欲しいです。



利用者さんの声

被災したため、みなし仮設住宅に居住しています。みなし仮設住宅から自宅の片付けや、通院のために週 2 回ほど送迎をお願いしています。移動手段が 1 番困っていたため、この活動が何よりも助かっています。今後自宅に戻って来ることができるので大変嬉しいです。

倉敷市 03

NPO法人
ぶどうの家わたぼうし



食事をして買い物にも行く

買い物弱者への支援

倉敷市船穂町船穂地区。高梁川の西岸に位置し、温暖な気候と豊かな水を利用し、果物（モモ・ブドウ）や花卉（スイトピー）の栽培が盛んな地域です。

船穂地区の若い人は、車を利用し、少し離れた大型スーパーに買い物に行くことが多く、地区内に3軒あったスーパーは1軒だけという状況になってしまいました。

地域の高齢者など、自転車に乗れなくなったり、歩行が困難になってしまった移動手段のない「買い物弱者」について、当法人でも支援できる取組を考えて、「NPO法人かめかめ福祉移送」代表の横山氏に相談、助言を頂きながら、平成27年5月より、「福祉有償運送」を開始しました。

さらに、平成29年4月から「食事をして買い物にも行く」という事業を始めました。高齢者の方々を対象に、住み慣れた家で暮らし続けるために、「食事」と「買い物」に行ける「場」を提供する取組です。

毎週火曜日に、車で高齢者の自宅まで迎えに行きます。「ぶどうの家茶々遊亭（ちゃーちゃーゆーてー）」で、おしゃべりをしながら昼食を食べた後、福祉有償運送の

車両で買い物に出発します。スーパーで約1時間の買い物をした後、自宅までお送りします。利用料金は、食事代が600円で、自宅や買い物先への送迎は無料です。

令和元年5月地域内に唯一あったスーパーも廃業してしまいました。今後は、船穂町に住んでいる方々にこのサービスを知ってもらい、活用していただくことで、「地域での生活支援の担い手の拡大」につなげ、「地域の活性化」「コミュニティの再生」を目標に頑張っています。



●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	NPO 法人 ぶどうの家わたぼうし
2	開始時期	H29 (2017) 年 4 月
3	利用対象者	船穂地域の住民で、利用申込をした概ね 65 歳以上の人
4	利用者数	登録者数 21 人
5	車両台数	法人所有の車両 4 台
6	運転者数 / 主な運転者層	5 人 / 60 代～70 代
7	送迎に係る利用者負担	なし
8	今後の課題	運営スタッフ、運転ボランティアの発掘



高齢者の方の目印になるように、白い帽子をかぶっています。

支援者の池田 浩一さん

人とコミュニケーションをとることが好きなので、高齢者の方を支援できるのではないかと思ったのが、始めたきっかけです。また、活動を通じて船穂町に活気が戻ってもらえればと感じています。体が元気な限りは、頑張っていきたいです。



この日の昼食。魚の煮付け、刺身、サラダなどバランスのよい食事になっています。魚を摂取する機会が減っているので、メニューの中に取り入れるようにしています。



利用者さんの声

□コミで徐々に広がったため、みんな繋がっています。自分の目で見て、選んで買い物出来ることが1番ありがたいです。

倉敷市 04

ぶどうの家 「助け隊・ありが隊」



住民同士で生活を支える仕組み 助け隊・ありが隊

平成30年7月の西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市真備町地区。

被災地復興の取組を進める中で、住民の方のそれぞれの困りごとを受けとめる場、住民が活躍できる場を集約し、住民同士で生活を支える仕組みを立ち上げることとなりました。

令和元年8月「助け隊・ありが隊」を開始しました。「助け隊」とは、車を使用した外出移動支援だけでなく、犬の散歩や庭の手入れ、子守等々、生活支援全般の困りごとを支援する有償ボランティアです。「ありが隊」とは、支援を必要とする人で、双方が事前に利用登録を行い、コーディネートがマッチングを行います。

ひとりの人が、「助け隊」になってサービスを行うこともあれば、「ありが隊」になってサービスを利用することもあるという、助けたり助けられたり、お互いさまの仕組みです。

この取組を色々な地域に徐々に広げ、今後、みなし仮設住宅等から、真備町へ戻ってくる方々が、安心して暮らしていける地域を目指していきたいです。

ぶどうの家 ブランチでは、毎週木曜日に、地域の人が集まって昼食を作って、みんなで食べる「みそ汁ごはんの会」があります。昼食後も、おしゃべりをしたり、好きなことをして、楽しい時間を過ごしています。



●基本情報

	項 目	内 容
1	実施主体	NPO 法人 ぶどうの家わたぼうし
2	開始時期	R1 (2019) 年 8 月
3	利用対象者	「助け隊・ありが隊」に利用登録した人 (年齢・性別を問わず、誰でも入会可)
4	利用者数	登録者数 16 人
5	車両台数	・各協力者の車 ・法人所有の車両 1 台
6	運転者数 / 主な運転者層	6 人 / 30 代～ 70 代
7	送迎に係る利用者負担※	チケットを購入し、利用者は協力者に活動時間相当分の切符を渡す。(1 点分の切符・・・100 円相当) 例) 活動時間 30 分・・・7 点 (700 円相当)
8	今後の課題	・取組の醸成と周知 ・新たな担い手の養成

※送迎の有無にかかわらず、活動時間に応じた一律の利用者負担



支援者の中本さん (写真向かって左)

人に助けられることが多く、助ける方にも回りたいと思い、始めました。

他の支援者の皆さん (写真向かって右 3 人)

人と話すことで、前向きになれ、元気をもらえます。被災して、ボランティアの方に助けられたので、何かできることはないかと思い、「助け隊」のメンバーになりました。



高橋 啓子 コーディネーター

「助け隊・ありが隊」のマッチングを行っています。とても楽しくやっています。



利用者さんの声

ぶどうの家の人に声を掛けてもらい、参加しました。最近、免許を返納したので、助かっています。家の中に一人であるより、みんなと会話が出来て楽しいです。

倉敷市 05

社会福祉法人
倉敷中央天寿会



社会福祉法人の資源を活かした

「食」と「買い物」サービス

旧倉敷の街中にある社会福祉法人が行っている地域の高齢者の「食」と「買い物」を支援する取組です。

「二人になり食事をつくるのが大変」「サロンに行きたいけれど移動手段がない」「自分で商品を見て買い物が見たい」という地域の声を受け、法人の中で眠っている資源を活用して工夫することで解決できないかと、法人内で実行委員を選出して具体的な取組内容を検討しました。

そして、『移動』・『買い物』のニーズが高いことと、法人内の資源として『デイサービスの送迎車が日中空いている』『ケアハウス内に活用できる部屋がある』『毎日おいしい手作りの食事を提供している』『専門職もたくさんいる』という点を組み合わせることにより、平成28年4月に「食」と「買い物」を地域の高齢者に提供するサービスを立ち上げました。

①健康的な昼食の確保、食を通じた交流により孤独の解消、②移動支援による閉じこもり防止と生活意欲の向上、③自ら買い物を行うことで自立した生活の獲得を目的にサービスを実施しています。

現在送迎できるのは車の定員の関係で1日6人までですが、今後は他の団体とも連携して活動が広がればと考えています。



【取組のスケジュール内容】 一日の流れ

実施日：週2回（月・水）

- 10:30 デイサービス送迎車の空き時間を利用しお迎え開始（運転者はデイサービスの運転手、付添として地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の職員が交替で同乗）
- 11:00 ケアハウスに到着
- 11:30 ケアハウス内の会食会場で昼食
- 12:30 利用料（食事代）集金 ※送迎は無料
- 12:50 希望者は送迎車で近隣のスーパーへ買い物に出発
- 13:30 買い物終了
- 14:00～14:30 お送り終了

●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	社会福祉法人 倉敷中央天寿会
2	開始時期	H28 (2016) 年 4 月
3	利用対象者	実施主体が受託している倉敷中部高齢者支援センター管内の概ね 65 歳以上の住民で、集団生活に適応し、移動や移乗に介助が必要ない人
4	利用者数	12 人
5	車両台数	法人所有の車両 1 台
6	運転者数 / 主な運転者層	法人の職員 4 人 / 60 代～ 70 代
7	送迎に係る利用者負担	なし
8	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手の確保 ・参加者の増加に伴う、受け入れ体制の確保

支援者の山崎 康永さん

(倉敷中部高齢者支援センター (地域包括支援センター) 長、写真右)

同じく千葉 義浩さん

(実行委員長、倉敷中央在宅介護支援センター (居宅介護支援事業所) 所属、写真左)

包括の窓口にご相談があっても、この活動によって買い物や交流が成り立ち、介護保険の利用に至らないこともあります。

車の定員の関係で移動支援の利用者を増やせません。社福の地域貢献として、他の社福にも協力していただいて、広いエリアを分担してもらえたらと考えています。



利用者さん御夫妻の声

包括の職員さんに紹介してもらって利用しています。食事がおいしくて楽しみです。我が家ではなかなかこれだけのものは食べられません。ここなら栄養、カロリーを考えた食事が食べられます。買い物にも連れて行ってくれますしね。



地元社会福祉法人の地域貢献で復活・拡充
スーパー、病院への定期便

倉敷市玉島穂井田地区。バス路線廃止後、平成25年9月からNPO法人がガソリン代のみで行っていた福祉移送サービスが休止となっており、地域の高齢者の移動手段がなくなり困っていたところ、玉島北小地域ケア会議での協議を受けて、20周年を迎え地域貢献を考えていたグリーンピア瀬戸内が平成29年5月から無料運行を開始しました。

毎週2回、火曜・木曜に運行しています。前日の16時までに、グリーンピア瀬戸内に電話予約すると、施設の車で、自宅まで送迎します。

病院・スーパー・市役所・新倉敷駅と行き先を指定でき、定期運行なので、子どもと調整しなくても病院で次の予約ができる、スーパーでたくさんまとめ買いしなくてもすむなど利用者には大変喜ばれています。

施設の人員、車を使用しているため、運行日は、従事するスタッフの交代業務のやり繰りは大変ですが、1人でも多くの方に「利用して良かった」と思っていただけのように、登録者も増やしていきたいと頑張っています。



●基本情報

項目	内容
1 実施主体	グリーンピア瀬戸内
2 開始時期	H29 (2017) 年 5 月
3 利用対象者	65 歳以上の高齢者もしくは、障がい者手帳所持者で、乗降に介護が必要のない人
4 利用者数	登録者数 48 人
5 車両台数	法人所有の車両 1 台
6 運転者数 / 主な運転者層	法人の職員 2 人 / 40 代～ 60 代
7 送迎に係る利用者負担	なし
8 今後の課題	法人のスタッフがっており、負担が大きい



支援者の赤澤 幸好さん
まだ余力があります。
利用者が増えて欲しいです。

穂井田地区の皆様へ
グリーンピア瀬戸内が、
無料の送迎車両を運行します。

運行曜日：火曜日と木曜日
（※高に在住の方は本曜日のみお問い合わせください）
運行場所：穂井田地区（二宮町付近）から新倉敷駅方面及び玉島支所方面
方面（それぞれ近隣のスーパー、病院等含む）まで

●利用可能な方
穂井田地区にお住まいで、
①65歳以上の方
②障がい者手帳をお持ちの方（手帳開かず）
のどちらかに当てはまる方のうち、乗り降ひ等に介護の必要が無い方

運行時刻（予定）

穂井田発	新倉敷駅方面・玉島支所方面発
①9時30分頃（火・木運行）	①11時頃（火・木運行）
②10時30分頃（火曜のみ運行）	②12時頃（火曜のみ運行）
③11時30分頃（火・木運行）	③14時頃（火・木運行）

利用の流れ
①会員登録を行う（氏名、住所、緊急連絡先、送迎場所等の必要な情報を、登録用紙に記入していただきます。）
②登録者カードをグリーンピア瀬戸内が発行
③利用前日または前までに、電話予約を行う（登録者カードに書かれた番号、氏名、利用希望時刻を出せる）
※電話予約は平日が8:00～16:00です
※登録して1日送迎場所に車に乗車
利用希望される方への注意点等
●乗り合い方式のため、送迎の時刻が多少前後します
●天候、突発的な施設都合などのため、実施内容の変更、実施できない場合があります。
●車おたの定員7名までの定員制となっており、予約をお断りさせていただく場合もあります。
ご利用を希望される方は、別紙登録用紙を地域の福祉協力委員さん、民生委員さんまでご提出ください。
グリーンピア瀬戸内（問い合わせ担当：守屋・藤原）
電話：086-525-1234

運行案内チラシ



利用者さんの声

私は車に乗らないので、病院・買い物によく利用しています。
時間もちょうど良く、便利なので助かっています。

グリーンビレッジ瀬戸内



地域福祉の拠点として
仮設団地入居者一人一人の要望にも対応

倉敷市船穂町柳井原にあるグリーンビレッジ瀬戸内。特別養護老人ホームやデイサービスなどを運営しています。隣の敷地には、平成30年7月豪雨の被災者が居住する、トレーラーハウス型仮設団地があります。

グリーンビレッジ瀬戸内では、2か月に1回、地域住民の代表者等が集まって運営推進会議を開催しています。この会議において「仮設団地入居者の方が、買い物に行くための交通手段がなくて困っている」との話が出ました。

そこで、地域福祉の拠点を目指しているグリーンビレッジ瀬戸内として、入居者のために一役買わせて頂きたいとの思いから、平成31年2月から倉敷市真備町のスーパーや病院への送迎を始めました。

希望者は毎週水曜日の13時までに仮設団地内の集会所前に集合します。15時30分までに集会所に戻る範囲であれば、一人一人の要望に対応しています。郵便局、銀行、農協やお墓参りなどにも利用できます。

仮設団地の入居者は減少しており、送迎の利用者も減少傾向にあります。要望がある限りは続け

ていきたいと考えています。また、将来的には、柳井原地区において必要性があるならば、仮設団地がなくなつた後も、この取り組みを継続していきたいと考えています。



トレーラーハウス型仮設団地

●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	グリーンビレッジ瀬戸内
2	開始時期	H31 (2019) 年 2 月
3	利用対象者	トレーラーハウス型仮設団地入居者
4	利用者数	1～6人
5	車両台数	法人所有の車両 1 台
6	運転者数 / 主な運転者層	法人の職員 2 人 / 40 代～ 50 代
7	送迎に係る利用者負担	なし
8	今後の課題	柳井原地区において必要性があるならば、仮設団地がなくなった後も、この取り組みを継続していきたい。



香西 則明 施設長

施設（法人）の車の空き時間を活用して、送迎を行っています。利用者の方が「ありがとう」と言ってくれたり、喜んでくださるのが一番のやりがいです。



利用者さんの声

自分の目で見て選んで買うことができるので、毎週水曜日の買い物がとても楽しみです。この日はお墓参りにも連れて行ってもらいました。グリーンビレッジの方はとても親切でいい人ばかりです。



平成30年の西日本豪雨の被災者支援に、社会福祉法人ができる組織がないかと、倉敷市社会福祉協議会から、声がかかり、他の地域で実施している移動支援等を参考に買い物支援についての協議を進めていきました。

令和元年6月特別養護老人ホームシルバーセンター後楽の近くにある真備総仮設団地、市場仮設団地の住民を対象に、週1回、買い物支援「絆号」を運行して、近くのスーパーまでの送迎を開始しました。

併設のデイサービスの車両の空き時間を利用し、社会福祉法人の職員が運転を行っています。

開始当初は、利用者が集まらない日もありましたが、曜日を変えたり、チラシを作ったりして、徐々に活動が広がりました。

今後も、社会福祉法人として、地域に貢献出来るよう、他の機関と連携し、協力していきたいと考えています。

被災者の買い物支援する

社会福祉法人の地域貢献



買い物支援「絆号」チラシ



市場仮設団地

●基本情報

項目	内容
1 実施主体	シルバーセンター後楽
2 開始時期	R1 (2019) 年 6 月
3 利用対象者	真備総仮設団地及び市場仮設団地の入居者
4 利用者数	1～4人
5 車両台数	法人所有の車両 1 台
6 運転者数 / 主な運転者層	法人の職員 3 人 / 20 代～ 50 代
7 送迎に係る利用者負担	なし
8 今後の課題	・ 事業の継続 ・ 仮設団地以外へも活動を広めたい



支援者の1人 行守 尚雅さん (生活相談員)

利用者の「ありがとう」「これがあると助かるわ」などの声がやりがいです。

この他、令和元年11月から毎週金曜日にスーパーの一角を借りて「フレまび」集いの場を始めました。誰でも参加でき、希望する人には送迎も行います。集合した後、健康体操を行い、各自お弁当等を購入し、おしゃべりをしながら、昼食をとります。その後、自由に買い物し、解散する、3時間程度の集まりとなります。徐々に広がりつつありますが、もっと多くの人に参加いただける取組にしたいです。



フレまび集いの場チラシ



利用者さんの声

重い荷物を運んでもらえ、大変助かっています。スーパーに1時間後に迎えに来てくれるので、ゆっくり買い物が出来ます。

倉敷市 09

社会福祉法人

松園福祉会



「独り暮らしの会」を支える 社会福祉法人が行う送迎

倉敷市玉島八幡地区で平成22年から開催されてきたレクリエーションと昼食を楽しむ「独り暮らしの会のぞみ会」（以下のぞみ会）。かつては、参加者の家族や民生委員が送迎を行っていました。

平成28年に玉島南小学校区小地域ケア会議で、民生委員が行ってきた送迎について、事故等に対する不安が議題に上がりました。

のぞみ会を閉鎖させるという話も出ましたが、「通いの場」をなくすべきではないとの意見が上がり、デイサービスの空き時間に車を借りることはできないかと松園福祉会に相談がありました。保険の関係があるので、施設の職員が運転することを条件に車の貸し出しをすることになりました。

平成29年7月から運行を開始。2ヶ月に一度開催されるのぞみ会への送迎を無料で行っています。

送迎ルートは、利用者の体調等をふまえ、座席に座っている時間を短くするなどの配慮をし、民生委員が考えています。

令和2年1月現在10人乗りの車を使用し、運転手と付き添いの民生委員2人一組で、12人程度いる利用者の送迎を2回に分けて行っ

ています。

地域の方々にはなるべく住み慣れた場所ですらしてほしいという想いがあり、今後は、他の地域でも病院やスーパーへの移動支援など、活動の幅を広げられるよう努力していきます。



「独り暮らしの会のぞみ会」の会場 倉敷市柏島東憩の家

●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	社会福祉法人 松園福祉会
2	開始時期	H29 (2017) 年 7 月
3	利用対象者	「八幡地区独り暮らしの会のぞみ会」参加者のうち送迎を希望する人
4	利用者数	12 人
5	車両台数	法人所有の車両 1 台
6	運転者数 / 主な運転者層	法人の職員 1 人
7	送迎に係る利用者負担	なし
8	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの力が育まれ、自助、共助、互助の輪が広がってほしい。 ・他の地域や団体から、支援の依頼が増加した時の対応。



支援者の天野 想さん（写真右側）

この活動で、利用者さん、民生委員さん両方と顔見知りになれたので、送迎中の車内で得た利用者の困り事の情報をスムーズに民生委員に伝えられるようになりました。



利用者さんの声

送り迎えがあると、気兼ねなく、気軽に参加できます。
足が悪いと、近所でもなかなか会いに行けないから、皆で集まるのは楽しいし、嬉しいです。

のぞみ会参加者のみなさん

笠岡市 10

認定NPO法人
ハーモニートネット未来



時間通貨で互助の「たすけ愛」 家事、介助とともに外出支援も

笠岡市で子どもや障害者に対する様々な支援に取り組んできた認定NPO法人ハーモニートネット未来。行政からの助言を受けて、高齢者にも支援対象を拡大し、平成21年4月から、「ふれあい・たすけ愛サービス事業」を始めました。

これは、年齢、性別を問わず、誰でも入会できる会員登録制度で、「困ったときはおたがいさま」の気持ちで会員同士がたすけあう有償ボランティア活動です。コーディネートが利用者と協力をマッシュングし、「たすけあい」が実現します。サービスの利用料、協力者への謝礼等は、「ふれあい切符」という時間通貨によってやりとりし、時間預託ができる仕組みです。

介護保険などの制度では対象とならない困りごとに対応しており、家事支援、簡単な介助などとともに、移動・同行支援も行っています。

移動・同行支援の行き先は、病院、美容院、買い物などですが、特にエリアを限定せず、福山や倉敷までお連れする場合があります。制度外なので誰でも自由に使え、また協力者となじみの関係なので話がはずむなどと喜ばれています。利用者さんは「自分の時間が豊か

になる」使い方をされておられると感じています。また、協力者さんのやりがい、いきがいにもつながる活動です。

この活動を県下に広げ、人と人がやさしく、心でつながりあう「新しいふれあい社会」をつくっていききたいと心より願っています。



●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	認定NPO法人 ハーモニーネット未来
2	開始時期	H21 (2009) 年 4 月
3	利用対象者	ふれあい会員に登録した人 (年齢・性別を問わず、誰でも入会可)
4	利用者数	登録者数 252 人
5	車両台数	・各協力者の自家用車 30 台以上 ・法人所有の車両 2 台
6	運転者数 / 主な運転者層	30 人以上 / 20 ~ 70 代
7	送迎に係る利用者負担※	ふれあい切符を購入し、利用者は協力者に活動時間相当分の切符を渡す。 (1 点分の切符 … 100 円相当) 例) 活動時間 30 分 … 7 点 (700 円相当)
8	今後の課題	・運営財源の確保 (特にコーディネーターの人的費の継続的な確保) ・担い手の確保 (現在は協力者の口コミや他事業利用の母親の活動参加により確保) ・本事業のノウハウ移転により、制度外サービスシステムを県内各地に広げていくこと。

※送迎の有無にかかわらず、活動時間に応じた一律の利用者負担

事業内容



利用者さん(この日の依頼者さん)の声

(右ページの上の写真 右の方)

5年くらい前から利用しています。毎週民謡や買い物に使っていて、今日は入院中の知人のお見舞いにも行ってきました。いつもお願いする協力者さんは、言うことなし、100点です。スタッフさんも感じがいいです。

支援者(この日の協力者)の文谷 江里さん

(右ページの上の写真 左の方)

子どもが中学に入ってからコーディネーターとママ友に誘われて始めて、今10年目です。外出できない、家事ができない人のお手伝いをして喜ばれるので、続けています。

■仕組みとポイント (時間通貨)

- ◎入会金 2,000 円 : 入会登録手数料
- 年会費 3,000 円 : 保険・事務運営費等
- ◎依頼 : 1 時間 12 点 (1,200 円相当)
(交通費一律 2 点 (200 円相当) 含む)
- ◎協力 : 1 時間 8 点 (800 円相当)
(1 時間 6 点 (600 円相当)
+ 交通費 2 点 (200 円相当))
- ◎寄付 (本会運営費) : 1 時間 4 点 (400 円相当)
- ◎ふれあい切符で流通 (現金でも可)
(ふれあい切符はいつでも精算することができる)



宇野 均恵 理事長

高齢社会をむかえ、地域包括ケアシステムの構築が急がれている現在、制度と制度外サービスを組み合わせることで、支援が充実します。制度外サービスシステムである、本事業をノウハウ移転し、県内各地に広げていくことで、住み慣れた家で、人生の最期まで、その人らしい生き方を尊重することが可能となると考えています。



食事つきサロンを立ち上げ

ボランティアの車で通いを支援

旧井原市の東の端に位置し、東江原町と神代町からなる井原市荏原地区。ぶどうの栽培や稲作が盛んで、兼業農家が多い地域です。

平成25年11月に地区の高齢者を対象にアンケート調査を実施したところ、下のような声が寄せられました。アンケートの結果をもとに協議会の高齢者支援部会で話し合い、「こつした共通の要望は氷山の一角。地域でできることから少しずつでも要望に応えよう。」と、「一人暮らしの高齢者等を対象とした交流の場、居場所づくり」に取り組むこととしました。

平成26年5月からボランティア手作りの食事つきサロン「ふれあい広場」を、月2回、地区の公民館（東江原町）（現在は建替中のため井原市ふれあいセンター（神代町）で開催しています。サロン立ち上げ当初から、足腰が弱ったり、運転免許を返納したりして、自力では通えない高齢者を、運転ボランティアが自分の車で送迎しています。会場が変わってからは、サロンの利用者も、送迎が必要な人も増えました。

平成25年11月 アンケート結果（抜粋）

- ・人と人とのつながりも会話も少なくなっているのが恐ろしく感じる。（50代・男性）
- ・もっと交流でき、気軽に立ち寄ることの出来る場所は？（70代・男性）
- ・お互いに気兼ねなく話したり、相談できる人がだんだんいなくなってきたように思います。こんな人たちが和気あいあいと話せ、頼れる方法は？（70代・女性）



●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	荏原地区まちづくり協議会
2	開始時期	H26 (2014) 年 5 月
3	利用対象者	地区の公民館で月 2 回開催される食事つきサロン「ふれあい広場」に参加する高齢者のうち、送迎を希望する人
4	利用者数	12 人
5	車両台数	各ボランティアの自家用車 5 台
6	運転者数 / 主な運転者層	5 人 / 60 代後半～ 70 代前半
7	送迎に係る利用者負担	なし
8	今後の課題	万一事故が起きた場合の利用者家族の理解



笠原 正広 高齢者支援部会長 (右ページ上の写真 中央奥の方)

ふれあいセンターに移って神代町の新しい利用者が増えたのはうれしいのですが、公民館が使えていた時は、無料出前講座や地元小学生による学習発表会、演芸など、いろいろやっていたのに、今は手狭でできないのが残念です。新しい公民館に戻ったら、会食だけでなく、またいろいろやりたいです。

その時はふれあいセンターには自力で来れていても公民館は遠くて無理という人も出てくるでしょうが、人数が増えても自分たちが送迎するので、是非引き続き来てもらいたいと思います。

利用者さんの声

免許を返納した後は、自転車に乗って来ていましたが、自転車にも乗れなくなりました。送迎してくれるので、継続して参加できています。月 2 回の「ふれあい広場」がとても楽しみです。



支援者の西山 定良さん

来られるときは井原あいあいバスが使えますが、帰りは便が悪いので、帰りだけ自分の家の近くの参加者を自宅まで送っています。やっているのは、皆さんが喜んでくださるからです。



地域包括支援センター出前講座
～認知症とその予防について～



小学 6 年生 学習成果発表
～荏原の「伝統文化」を学んで～

(公民館での以前の活動写真 2 点は、『荏原地区まちづくり協議会高齢者支援部会の活動報告』から許可を得て転載しました。)

総社市 12

三須桃山団地
買援隊



利用者の皆さん

団地内での助け合い スタッフの車に分乗し、スーパーで買い物

総社市南東部の高台にある三須桃山団地は、住民の高齢化が進み、買い物に困っている人が増加しています。近くのスーパーまでは、徒歩や自転車で行けない距離ではありませんが、買い物をした荷物を抱えて歩いたり自転車に乗るのは、高齢者には危険が伴います。

そこで、団地内のボランティアグループの会員が中心となり、買い物ツアーを実施する「買援隊」を結成し、高齢者の買い物を支えています。平成30年4月に本格開始した当初は、タクシーに相乗りして市内のスーパーまで行っていました。スタッフがの車に分乗してスーパーに行っています。

毎週水曜日の9時30分頃、利用者が団地内の集会所に集合します。市内のスーパーまでは車で5分程度です。利用者は各自1週間分の買い物をした後、スーパー内のイートインコーナーに集合します。ここでのおしゃべりも楽しみの一つです。

スーパーでの滞在時間は

約1時間程度です。帰りは利用者の自宅玄関先までスタッフが買い物をした荷物を届けています。一人暮らしの利用者も多く、買援隊の買い物ツアーが貴重な外出の機会になるとともに、安否確認の役割も果たしているところです。



スタッフの皆さん

●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	買援隊(かいえんたい)
2	開始時期	H30(2019)年4月
3	利用対象者	総社市三須桃山団地の住民
4	利用者数	10人
5	車両台数	スタッフの自家用車4台
6	運転者数/主な運転者層	9人/60代後半~70代前半
7	送迎に係る利用者負担	任意の謝礼
8	今後の課題	・運営費の確保 ・後継者(担い手)の確保



買い物ツアーなら、大きな荷物もスタッフの車で運べます。



支援者の山本 公暁さん

自分も将来、人に助けてもらえるようになるかしれません。今できるうちにボランティア活動を行い、次の世代の後継者に繋いでいきたいです。



利用者さんの声

買い物ツアーに参加するようになってから、実際に目で見て買い物できることがうれしいし、みんなとおしゃべりができることが楽しいです。とても助かっています。



「助け合い事業」出発式

新見市の交付金を活用した助け合い事業
レンタカーでの送迎支援

新見市南東部に位置する熊野・井倉野地区は、約100世帯260人が生活し、高齢化率は43%です。助け合い事業を始めるきっかけとなったのは、誰もが安心して住み続けられる地域を目指し、住民同士の助け合い活動につなげるため、平成29年に地区住民を対象に実施したアンケート調査です。日常生活の中で「どんなことに困っているか」、「どんなお手伝いができるのか」を調査した結果、要望の多かった送迎支援と生活支援の実施に向けて協議を始めた。

送迎支援の実施に当たっては、道路運送法の制約など多くの課題がありました。研修会やスタッフ会議を重ねた結果、課題や不安を払拭することができたので、平成30年9月に出発式を行い、助け合い事業をスタートさせました。

ここでの送迎支援は、レンタカーを使用し、住民ボランティアが運転手となって、主に新見市中心部の病院やスーパーに高齢者等を送迎しています。レンタカー代等の経費は、新見市から「熊野の将来を考える会」など地域運営組織に

対する交付金「小規模多機能自治一括交付金」を活用しています。



スタッフ会議の風景

●基本情報

	項 目	内 容
1	実施主体	熊野の将来を考える会
2	開始時期	H30（2018）年9月
3	利用対象者	熊野・井倉野地区の住民
4	利用者数	1月当たり9～15人
5	車両台数	レンタカー1台
6	運転者数 / 主な運転者層	5人 / 60代後半～70代前半
7	送迎に係る利用者負担	任意の謝礼
8	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの継続的な確保 ・運営資金の確保（行政のサポートが不可欠）



出発式でのテープカット



森田 寿 会長

助け合い事業の成果としては、住民の助け合い意識の向上や生きがいの創出、高齢者の交流の場や見守り活動につながっていることが挙げられます。



スタッフと利用者の皆さん



助け合い事業は、高齢者の方に大変喜ばれています。こういった取組が、次の世代へつながっていくことを期待しています。

新見市 14

豊永地区福祉ネットワーク



支援者増やし負担を少なく 地域で支える買い物ツアー

新見市豊永地区。新見市南部の標高約300メートルの山あいの地域です。以前は日本有数の葉たばこの生産地でしたが、現在では山の斜面に壮大なピオーネ畑が広がっています。

平成28年2月に開催された豊永地区小地域ケア会議で買い物難民の議題が出たのをきっかけに行った、アンケートと聞き取り調査の結果、買い物ツアーを利用したいという声が上がり、平成29年7月から豊永地区福祉ネットワークが市社会福祉協議会の車を借りる「豊永地区買い物ツアー」の運行を開始しました。

運行は月2回で2班に分かれ、それぞれ月1回利用できます。最初9人だった利用者も現在（令和元年12月）では、15人に増えました。利用者は、主に近くに買い物できる場所のない75歳以上の一人暮らし高齢者の方若しくは80歳以上の高齢者のみの世帯の方です。（参加しない場合のみ、民生委員に連絡します。）

支援者は36人で、運転手1名、付き添い1名でふもとのスーパーへ向かいます。必要な方には、買い物中も付き添います。利用者が

多いときは迎えに回るだけで1時間かかることがあり、ボランティアにとっては半日仕事ですが、1人あたり年間1〜3回の当番で回しており、特定の人物に負担が集中しない仕組みがとられています。



運転手と付き添い係の集合場所からスーパーまでは直行すると20分程度で着きますが、個々の家を回るので、1時間程度かかります。

●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	豊永地区福祉ネットワーク
2	開始時期	H29 (2017) 年7月
3	利用対象者	豊永地区の住民で、車がない又は運転ができない（地区内の購買所近隣者は除く）75歳以上独居者もしくは80歳以上高齢者夫婦
4	利用者数	15人
5	車両台数	社会福祉協議会の車両1台
6	運転者数 / 主な運転者層	10人 / 65～70代
7	送迎に係る利用者負担	任意の謝礼
8	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足 ・運転ボランティアの拘束時間が長い ・参加者の買い物時の転倒が心配 ・参加者が少ないと赤字になることがある

支援者の山田 卓志さん（写真右側）

主任児童委員をやっていた関係で支援者になりました。
遊びがてら、年に2～3回活動に参加しています。
やりがいは、みなさんが喜んでくれることです。



利用者さんの声

病気で入院してから、車の運転をしていないので、助かっています。
買いたい物を紙に書いて準備しています。



新見市 15

新見市福祉ボランティアの会



独居高齢者を支える

ボランティアの会の買い物ツアー

新見市福祉ボランティアの会の歴史は古く、市内で様々なボランティア活動を行っている個人に、新見市社会福祉協議会が声を掛け、平成5年5月に結成された団体です。

結成当初は、4部会（子育て・集い・移送・訪問（お弁当配布））に別れて活動していましたが、会員の減少等により、部会制を廃止し全会員で同じ活動を行っています。

平成21年7月、満80歳以上の公的支援を受けていない1人暮らし等の方に民生委員を通じて「買い物ツアー」についての希望アンケート

トを行い、9月から開始することになりました。当初は、3地区の住民を対象に運行し、軌道にのった平成23年には、4地区まで広げることができましたが、その後、各地区の参加者の減少により、令和元年から2地区の住民を対象に運行を行っています。

参加者の送迎は、社協の車両を借りて行い、帰りに燃料を満タンにして返します。

近年は、各地域で様々なボランティア活動を行う団体が立ち上がり、会員数が減少していますが、買い物ツアーを楽しみにしてくださる方がいる限りは、続けていきたいです。



●基本情報

	項 目	内 容
1	実施主体	新見市福祉ボランティアの会
2	開始時期	H21（2009）年7月
3	利用対象者	利用登録を行った、満80歳以上の公的支援を受けていない1人暮らし高齢者
4	利用者数	登録者数8人
5	車両台数	社会福祉協議会の車両1台
6	運転者数 / 主な運転者層	2人 / 70代
7	送迎に係る利用者負担	ガソリン代実費
8	今後の課題	ボランティアの担い手がいないこと



支援者の金本 保孝さん

退職後ボランティアを始めました。利用者の「ありがとう」の聲が嬉しいです。
 モットーは何でもチャレンジ。他にも、高齢者の傾聴ボランティア、小学生への読み聞かせボランティアをしています。
 また、スキルアップになればと思い、高齢者関係や子育て関係、救命救急関係等の講座も積極的に受講しています。



利用者さんの声

買い物に出かけるのは、月1度の買い物ツアーだけなので、楽しみにしています。
 買い物をした荷物も玄関まで運んでくれ、皆さんとても親切にしてくださいるので、大変助かっています。

みどりヶ丘イキイキグループ



し解決す
べき地域
の課題を
把握しま
した。そ
の結果を
踏まえて
勉強会、
視察研修
を行い、
住民のた
めの移動
手段につ
いて考え
を深めて
いきまし

た。
2年目(平成29年)は、実際の利
用者の具体的なニーズや運行に必要
な経費の算出のために、夏期・冬期
の各1ヶ月間無料でテスト運行を行
いました。運行は個人宅の玄関まで
の送迎としました。「乗りやすい」「次
はいつ?」と大変好評を得ることが
できた一方で「無料だと乗りにくい」
といった声もありました。
3年目(平成30年4月)無償運行、
利用料はガソリン代実費の形態で、
運行開始。運転手となった人は、講
習を受講。送迎は、付添者と2人一
組で行い、浅口市営の無料バスの運
行日(月・木曜)以外の平日、火・
水・金曜を運行日としました。また、
閉店した店舗を自分たちで改装して、
事務所となる拠点「いきいきプラザ」
を整備し、地元でとれた野菜や手作
りの雑貨を販売しました。
4年目(令和元年)は、利用者の
声から運行日を月・火・水・金・土
曜に増やし、また物販の拡大やアル
ミ缶の回収を行う等して、運営資金
を自分たちで生み出せるよう頑張っ
ています。5年先、10年先もみどり
ヶ丘でイキイキと暮らしていくため
に、自分たちで何が出来るのか、皆
さんが協力して取り組んでいます。

浅口市鴨方町みどりヶ丘。高度
経済成長期に水島工業地帯が出来
たのをきっかけに、多くの働き盛
りの方が、こちらのみどりヶ丘団
地に引っ越して来られました。団
地は、急速な高齢化を迎えており、
「今はまだ、買い物、通院には困ら
ないけど、将来の移動手段の方法
は?」との声が、地域の移動支援
サービスを考えるスタートとなり
ました。
1年目(平成28年)は、地域のニ
ズを知るため、中学生以上の全住
民を対象としたアンケートを実施

店舗を改装して拠点を整備
みどりん号で移動を支援

●基本情報

	項目	内容
1	実施主体	みどりヶ丘イキイキグループ
2	開始時期	H30（2018）年4月
3	利用対象者	みどりヶ丘地区の住民で、利用登録を行った、6歳以上の自力で乗降可能な人
4	利用者数	登録者数 212人
5	車両台数	リース車両 1台
6	運転者数 / 主な運転者層	11人 / 60代後半～70代前半
7	送迎に係る利用者負担	ガソリン代実費
8	今後の課題	・事業の継続性（活動資金の確保） ・ボランティアポイントの検討

利用者さんの声

みどりん号を利用して1年。タクシーを利用して、通院していましたが、この会長の紹介で利用するようになりました。
1人暮らしのため、ここに来て、お茶をしたり、話をしたりすることも楽しみの1つです。



支援者の楠本 正身さん

立ち上げ当初から参加しています。自分もいずれお世話になるので、今できることをやっておこうという気持ちで頑張っています。
利用者に喜んでもらえるのが一番のやりがいなので、楽しい会話ができるよう心がけています。
送迎のボランティアがない日も、情報交換等を行うため、こちらに顔を出します。



この日は、他県からの視察がありました。
取組について、多くの質問が上がり、貴重な意見交換の場となりました。





くるりん定例会（令和2年1月）

社協の福祉有償運送の登録運転者が
給食サービス・サロンの参加者を送迎

健康増進や引きこもり防止、社会参加、仲間づくりを目的に、早島町内の各地区で開催されている「ふれあい・いきいきサロン」や「高齢者給食サービス」（会食）の活動場所への移動が困難な方を対象として、町社協所有の車による送迎を無償で行う活動です。

きっかけは、平成25年7月に町社協が行ったアンケートで、高齢者や障がい者等の移動手段に困っている方への外出サポートの要望

が高かったこと。この結果を受けて、平成27年度からの地域福祉活動計画に「町域での移動手段の仕組みづくり」と「運転ボランティアやガイドヘルパー等の養成」等を活動目標として位置付けました。

その後、8回にわたる検討会、1年あまりの試行等を経て、平成28年4月の福祉有償運送のサービス開始に合わせて、福祉有償運送の登録運転者が運転ボランティアとして町内全域のサロン送迎を行うこの活動を正式に始めました。サロン

等からの依頼により利用者の送迎を行っています。現在サロン3カ所、給食サービス6カ所から依頼を受けています。

運転ボランティアは福祉有償運送の運転者資格を取得するための講習を受講。また、毎月1回運転ボランティアと事務局の社協職員が出席して定例会を開催し、利用者の状態や必要な配慮などについて情報共有・意見交換をして、サービス向上に努めています。

●基本情報

	項 目	内 容
1	実施主体	運転ボランティア くるりん
2	開始時期	H28 (2016) 年 4 月
3	利用対象者	早島町内各地域でのサロン活動や給食サービス活動(会食会場での食事)へ自力で参加が困難な人
4	利用者数	46 人
5	車両台数	社会福祉協議会の車両 2 台
6	運転者数 / 主な運転者層	11 人 / 60 代～ 70 代
7	送迎に係る利用者負担	なし
8	今後の課題	・運転ボランティアの確保、育成 ・曜日による利用者の片寄り



取材させていただいた日の行き先は給食サービス「たんぼぼ」でした。



利用者の方の笑顔がとても印象的でした。



支援者の本田 正行さん

短い距離でも段差があったりしてサロンに行けないお年寄りの楽しみを増やしてあげたいという思いで始めました。長く続けていると、安心感からお年寄りから頼りにされていると実感します。それがやりがいになっています。

利用者さんの声

給食サービスの代表の方から声を掛けていただいて利用しています。車も乗れないので、送り迎えをしてもらって助かっています。

家にいても昼間はひとり。ここに来れば、みんな知った人ばかりでいろいろ話ができ楽しいです。

矢掛町 18

輝け！江良元気会



元気集落事業で岡大留学生と一緒に作った看板
季節によってはユニークな案山子も訪れた人を歓迎

矢掛町を東西に横断する国道484号線や小田川の南側に位置し、町の中心地にも程近い江良地区。高齢化が進み、高齢者のひとり暮らしや老夫婦のみの世帯が増加しています。公共交通手段が乏しく、自家用車、バイク及びタクシーを利用して通院や買い物に行かざるを得ない状況です。町の地域福祉バス（ふれ愛バス）は運行されていますが便数が少なく、利用すると1日仕事になってしまい

ます。また、最近多く報道されている高齢者の交通事故などから、家族の勧めで運転免許証を返納される高齢者が増えています。平成30年秋に高齢者の方の買い物に関するアンケートを実施し、現在及び将来の移動支援のニーズが確認できました。そこで、こうした状況が、生活水準の低下、地域の活性の阻害、およびコミュニケーションの低下に繋がらないようにと、令和元年7月からおかやま元気集落事業の一環で「安心して活動できる地区づくり」として、移動困難者の移動支援の取組を始めました。

今は現役世代の支援者が動きやすい土日に月2回程度、支援者の車を使って矢掛町内のスーパー等へ運転者と付添の二人で送迎しています。今後は支援者、利用者それぞれの世代を広げて、平日の通院や学校からの急なお迎え要請にも対応できないかと考えています。

現役世代が地域を活性化

おかやま元気集落事業で移動支援も

●基本情報

	項 目	内 容
1	実施主体	輝け！江良元気会
2	開始時期	R1（2019）年7月
3	利用対象者	矢掛町江良地区の住民
4	利用者数	10人
5	車両台数	ボランティアの自家用車2台
6	運転者数 / 主な運転者層	2人 / 40代～50代
7	送迎に係る利用者負担	なし
8	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・無償ボランティアのため、「申し訳ない」という気持ちから利用を躊躇する人がいること ・運転手の確保とモチベーションの維持

利用者さんの声

今回初めて利用しましたが、ひとりだと大きなものが買えないので助かります。通院はタクシーを使っています。福祉バスは足が上がりませんので使えません。今後もこの移動支援を利用したいです。

坪井代表のお子さんふたりも参加して、利用者さんの話し相手に。利用者さんから「任意の謝礼」として、大きな鬼柚子をいただきました。



支援者の奥山 幹雄さん

「元気集落として、留学生との交流中心から、地域住民の生活支援も」との思いから始めました。今は土日の買い物中心ですが、平日でも自分や他の動けるメンバーが送迎するので、病院の送迎も是非相談してほしいと思います。

坪井 優 代表

- ・「近所の方が誘い合って」というのが理想。
- ・民生委員や地区社協と連携して周知を。
- ・無料だと遠慮があって利用されない方もおられるので、会員制にして会費をいただいて利用しやすくすることも。
- ・定年後の人にも担い手になっていただき、平日の通院支援も。
- ・とくし丸の移動販売車も利用できるようになり、今後はホームセンターでの大きな荷物の買い物や病院への通院が移動支援のニーズの中心になるかも。
- ・子育て支援（学校から急遽迎への要請があった場合の対応など）にも取り組んでいけたら。



留学生と一緒に稲刈り



神輿かつぎもみんなまで

こうした人と文化の交流（世代間、留学生と地域、留学生同士）・グローバル化の他、特産物の開発（ステビアの試験栽培）、岡大生による江良地区の宝物探し（地域の魅力調査）などにも取り組まれています。

（元気集落の他の取り組みの写真3枚は、「輝け！江良元気会」のFacebookから許可を得て転載・編集しました。）

備中県民局では、先進地視察や、活動報告・意見交換会も行い、高齢者の外出・移動支援サービスの活動に取り組む団体や、管内市町・社会福祉協議会の生活支援コーディネーター等に御参加いただきました。



先進地視察
令和元年11月19日



活動報告・意見交換会
令和元年12月6日

先進地視察や活動報告・意見交換会においては、管内では事例がない「利用者が所有する車を利用しての移送サービス」や、道路運送法の登録を受けて行う、自家用有償旅客運送における地域住民が主体となった取組など、今後の活動の参考となる事例を取り上げました。

視察先 1

○真庭市黒田地域「くらしサポート黒田」

- ・利用者が所有する車を利用しての移送サービス
- ・社協の車を借用しての買い物ツアー

○事業概要

くらしサポート黒田では、地域住民の暮らしを支えるために、平成30年2月から、移送サービスや買い物ツアー、生活支援を実施しています。

移送サービスは、車を所有するものの、運転が不安になったり、運転ができない高齢者の車を、くらしサポート黒田の登録サポーターが運転し、病院等へ高齢者を移送する活動です。

また、真庭市社会福祉協議会の10人乗りバスを借用し、真庭市中心部のスーパーへの買い物ツアーを、月2回実施しています。



くらしサポート黒田 稲田代表



視察時の様子

視察先2

○備前市吉永町笹目地区

- ・認可地縁団体による公共交通空白地有償運送

○事業概要

備前市吉永町笹目地区では、人口が減少し、高齢化率も60%近くに達しています。また、吉永町中心部方面への市営バスはあるものの、地区住民の生活圏である和気町方面へのバスはありません。

こういった状況の中で、住民の移動手段を確保して地域を存続させるために、認可地縁団体の法人格を有する笹目地区が運行主体となって、公共交通空白地有償運送の登録を受け、平成28年11月から、県と市からの補助金を受けて購入した「ささめあい号」の運行をスタートさせました。



備前市吉永町笹目地区 作長地区長



「ささめあい号」

活動報告・意見交換会

○井原市芳井町「特定非営利活動法人よしいかけはし」

- ・地域で立ち上げたNPOによる福祉有償運送

○事業概要

平成23年に、芳井町まちづくり協議会が実施したアンケートにより、移動手段が地域の最重要課題であることが判明しました。交通弱者と言われる人の移動手段を確保し、住み慣れた地域で安心して暮らすために、地域の有志でNPO法人を設立し、平成29年9月に福祉有償運送の登録を受け、運行をスタートさせました。

令和元年8月末現在で61名の登録者があり、月曜から金曜日まで運行しています。なお、井原市福祉基金から、車両購入に要する経費や活動資金の助成を受けています。

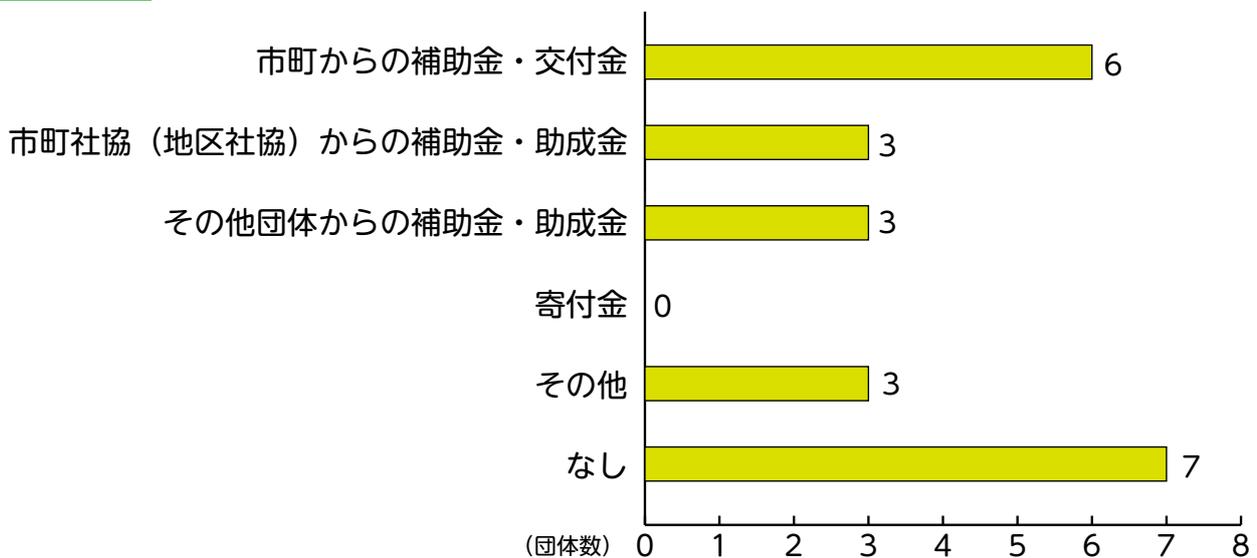


特定非営利活動法人よしいかけはし 早川副理事長

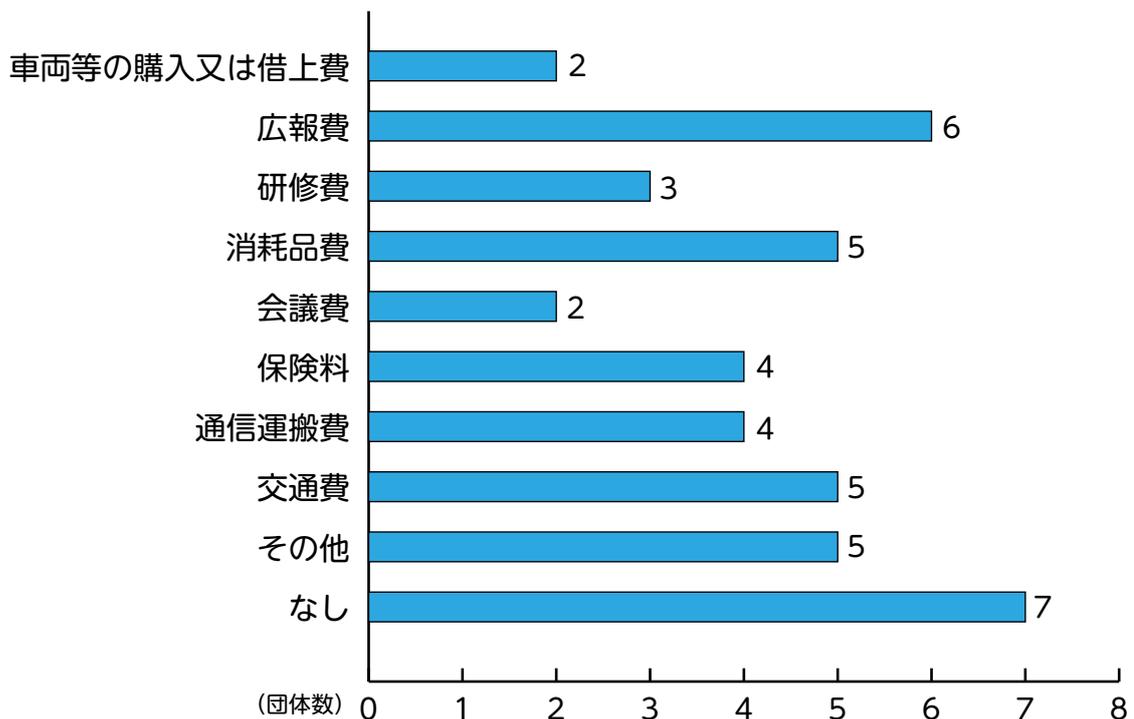


令和元年12月から令和2年1月にかけて、備中県民局管内の高齢者の外出・移動支援サービスを実施している18団体を対象に調査を行いました。

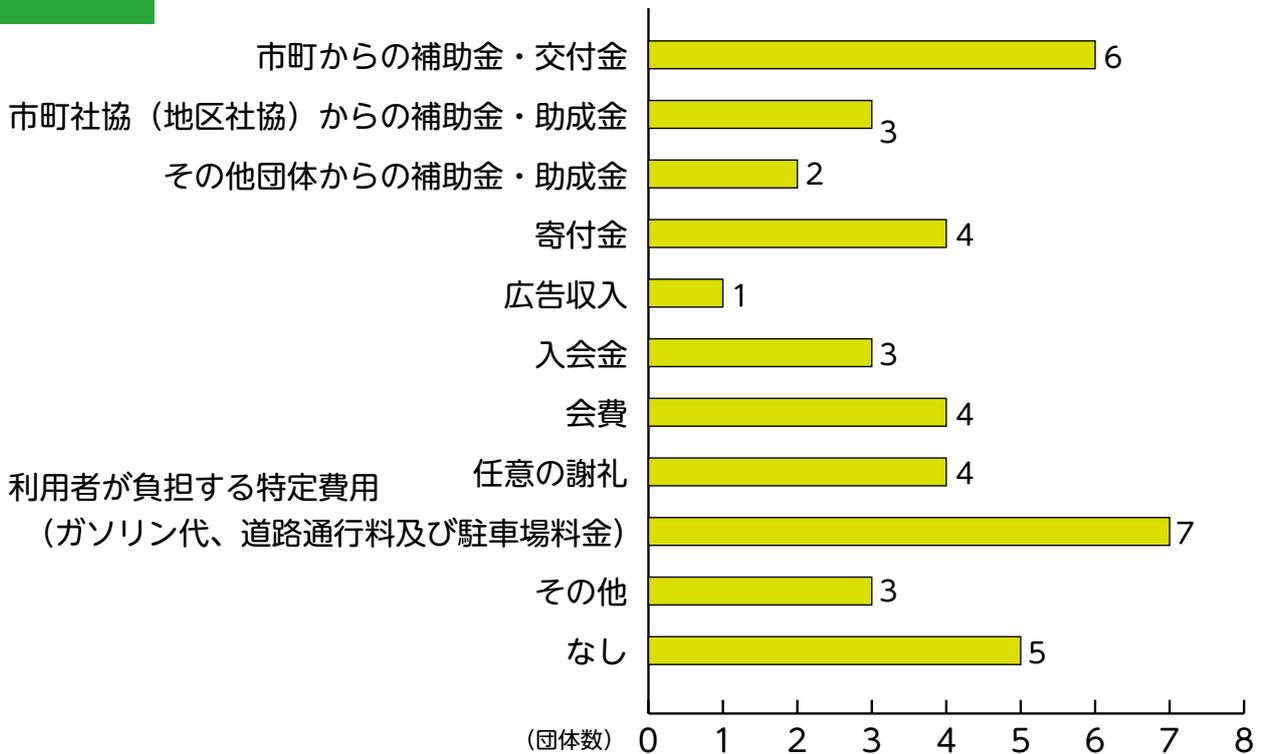
問1 外出・移動支援サービスの立ち上げ資金の調達方法



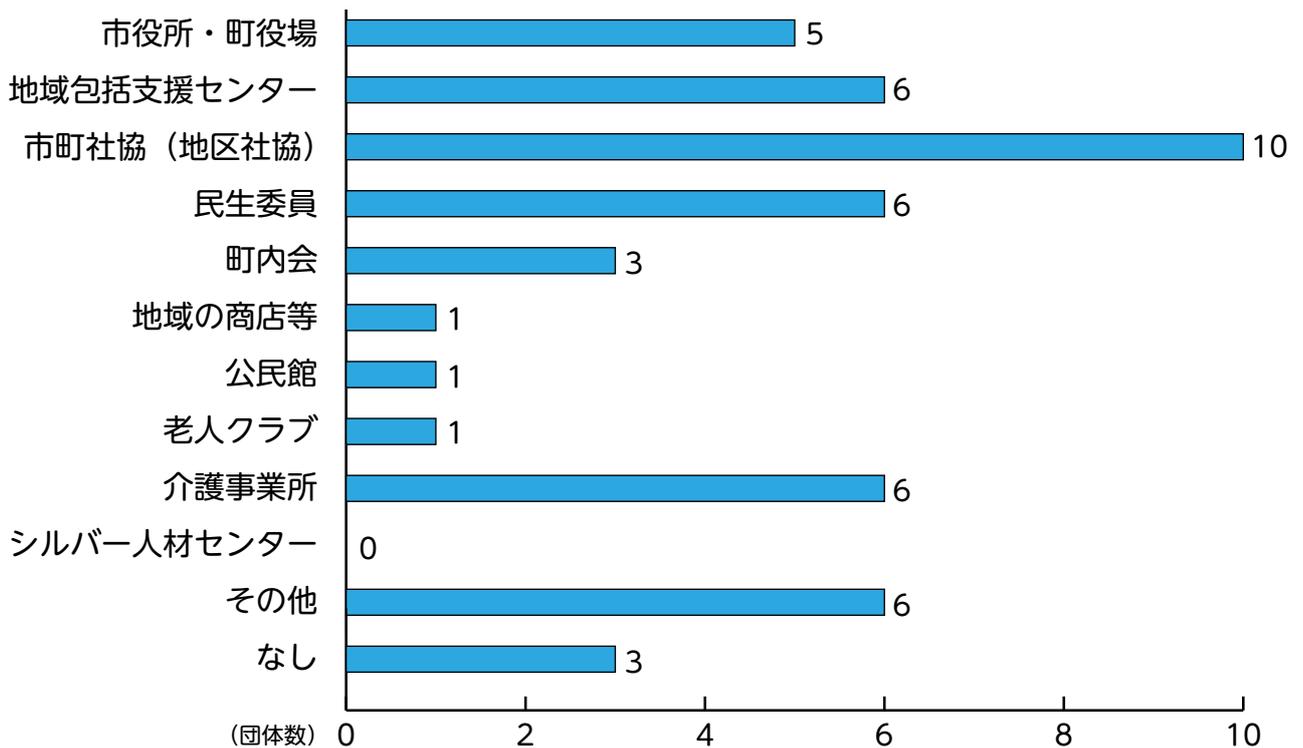
問2 外出・移動支援サービスの立ち上げ資金の主な用途



問3 外出・移動支援サービスの運転資金の調達方法

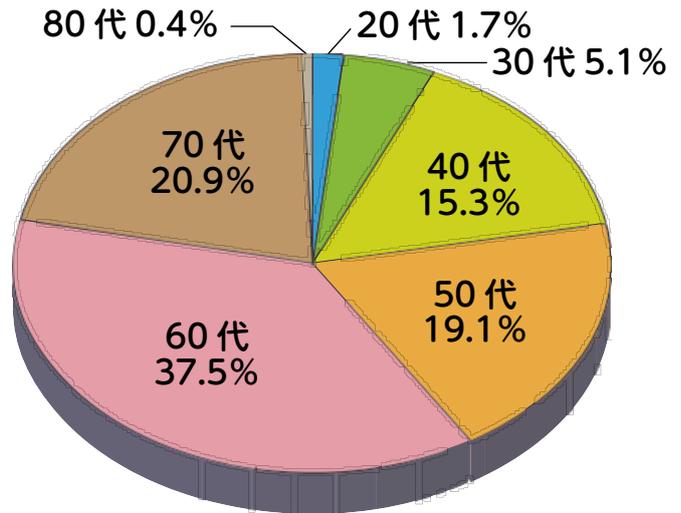


問4 外出・移動支援サービスの立ち上げ・活動時の連携先



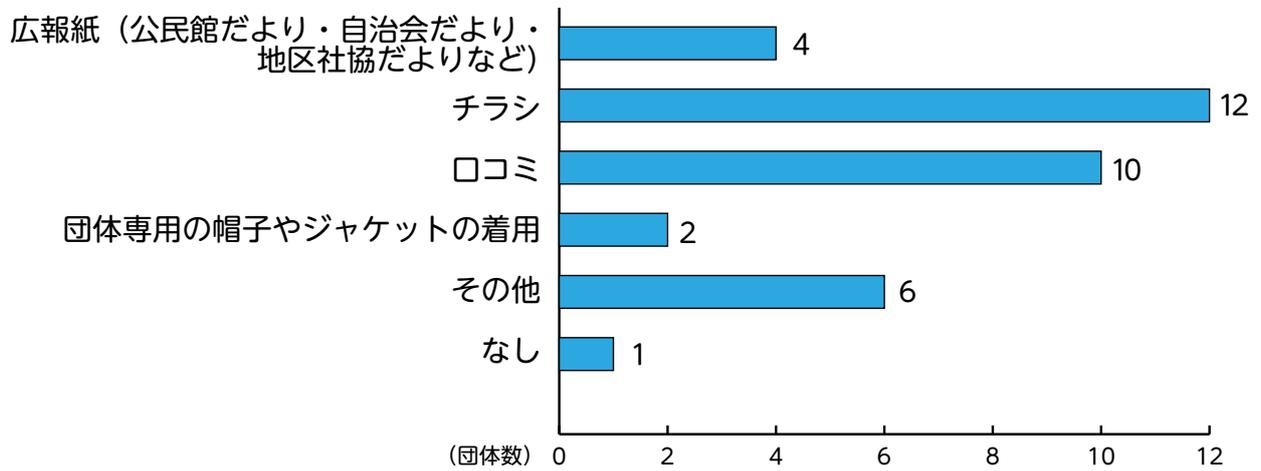
問5

外出・移動支援サービス
に携わる支援者の年代



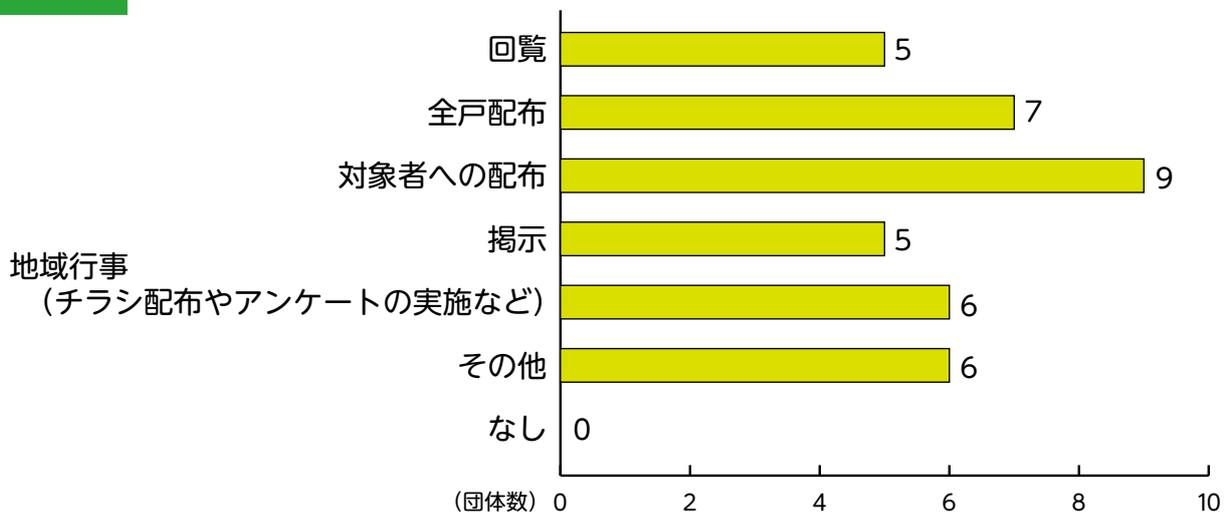
問6

広報の手段



問7

広報の方法



<令和2年3月発行>

岡山県備中県民局健康福祉部

〒710-8530 岡山県倉敷市羽島 1083

電話番号 086-434-7022 FAX 番号 086-427-5304

